

# 便利さに 慣れて忘れる 火のこわさ

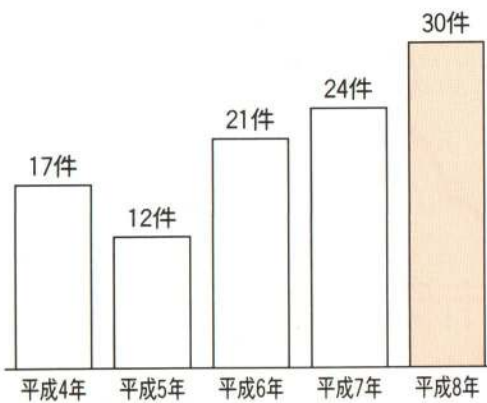


図2. 過去5年間の火災の発生状況(1月~9月)



図1

発生時期は、空気が乾燥しがちな春と、暖房器具を使用する冬期間が多くなっています。  
今年(一月~九月末)の火災発生状況をみると、件数が増加傾向にあります。すでに昨年一年間の発生件数を超える三十件の発生がありました(図2)。このうち建物火災は二十三件。損害額は約六千万円にもなっています。

## 火災予防の

### チエツクポイント

#### 慣れすぎた火にご用心

##### ↑ガスコンロ

ガスコンロはコックをひねるだけで火がつく便利な器具です。火をつけたまま、電話、テレビなどでその場を離れることに慣れてきていませんか。だれでも一度や二度はヒヤッとしたことがあるはず。「慣れた火」というのは、まさにこのことなのです。

- ・火を使用中はそのそばを離れない。
- ・離れるときはまず火を消してから。
- ・まわりに燃えやすいものを置かない。
- ・こまめにガスホースの点検をする。
- ・使用後は元栓も忘れずに閉める。

#### ↑石油ストーブ

寒い冬、石油ストーブは欠くことのできない暖房器具の一つです。洗濯物を乾かしたり、お湯を沸かしたりと、とても便利ですが、その反面、火災を引き起こす危険もたくさんあります。

- ・使用前には必ず整備点検する。
- ・燃えやすいものをそばでは使わない。
- ・上で洗濯物などを干さない。
- ・給油や持ち運びは火を消してから。
- ・外出、就寝時は完全に消火する。

#### ↑たばこ

嫌煙・禁煙運動が盛んであるにもかかわらず、たばこが出火原因の第三位になっていることを考えると、愛煙家の喫煙マナーに問題があることを訴えずにはいられません。

- ・投げ捨ては絶対にしない。
- ・寝たばこは、しない、させない。
- ・外出前は吸い殻の再確認を。

#### ↑たき火

落ち葉や枯草、家庭で不用になった紙くずなどを焼却しているとき、思わぬところへ飛び火して火事が起こることがあります。「たかが火の粉」とあなどることは絶対禁物です。

- ・一度にたくさん燃やさない。
- ・水を入れたバケツを用意しておく。
- ・風の強いときや空気が乾燥しているときはしない。
- ・燃えやすいものがない広い場所で。
- ・決してその場を離れない。
- ・終わったら完全に消火する。

#### ↑電気器具

文化的な生活の裏には、必ず危険が同居しているものです。電気器具も残念ながら例外ではありません。家庭内

#### ↑子供の火遊び

子供が火遊びをするのは、真紅の炎が子供の好奇心をまわし、強い興味をさそうからなのかもしれません。そんな子供たちに正しい火の知識を与えるのが、大人の役目なのです。

- ・ライターやマッチなどは、子供の手の届かないところに置く。
- ・幼児だけで留守番をさせない。
- ・子供が火に興味を示したら、火の正しい取り扱い方と恐ろしさを教える。

## 火災が発生したら

### ①「火事だーッ」と大声で叫ぶ

小さな火だと思っても、一人でまたは家族で消そうとしないことが大切です。「火事だーッ」と大声を出して叫んでください。もし、動転していて声が出なかつたら、やかんやなべなどをガンガンたたいて、近所のかたたちの助けを求めましょう。

### ②あわてず、騒がず、落ち着いて

火災の通報をするときは、局番なしの「119番」へ。つながったらあわてずに「火事」であることを、そして、発生場所が特定できるよう、住所や目標物を伝えてください。次に、落ち着いて状況を、最後にあなたの名前と電話番号を言ってください。

※公衆電話からかけるときは、まず、受話器をはずし、赤い緊急通報用ボタンを押してから「119番」にかけてください。